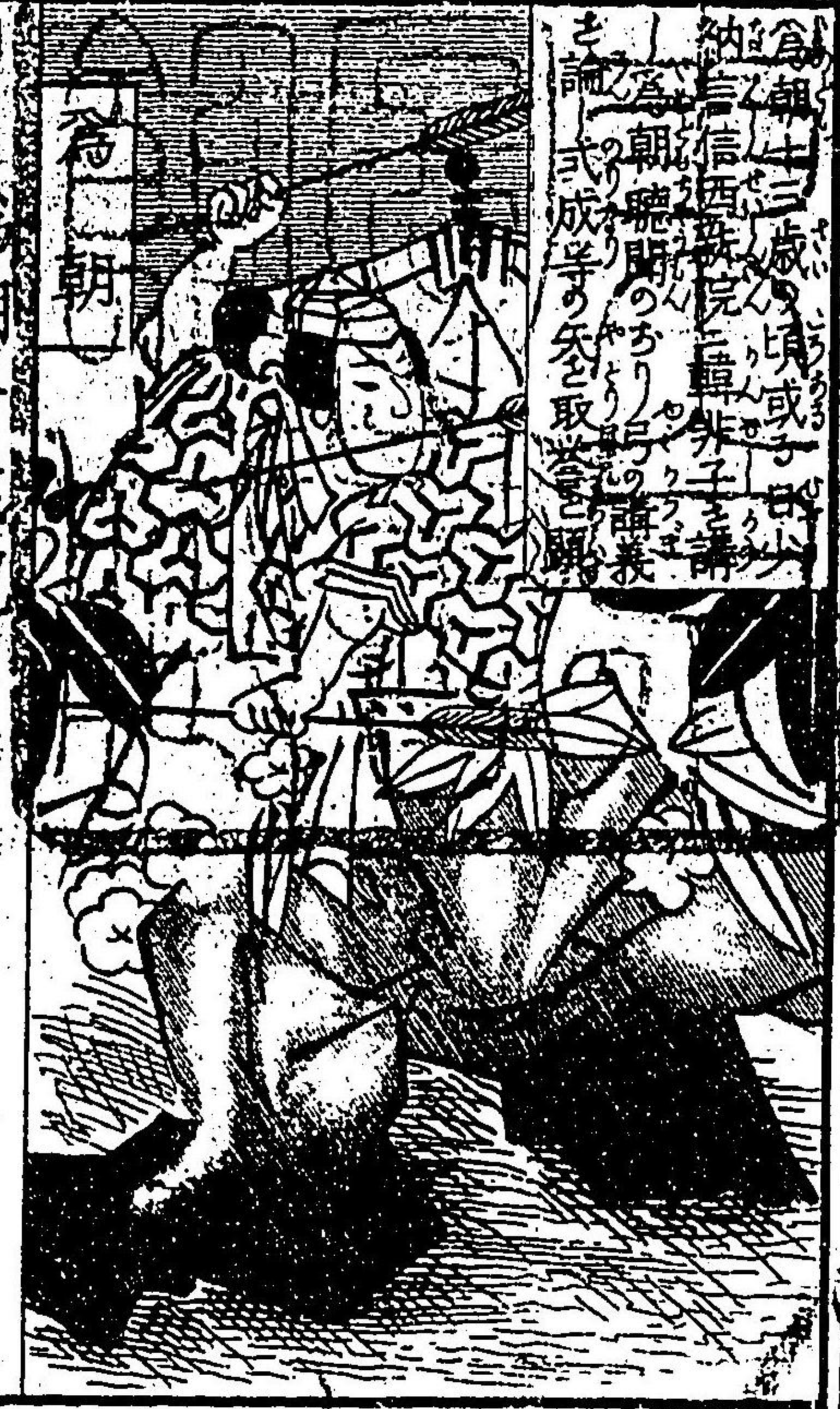


奇朝



納言朝生三歳頃或は
信西院轉非子講
爲朝聽開のちり
と論式成等の矢を取



一代記

為朝一介

為朝
紀平次

為朝一介



為朝父の勘氣を受郷黨
 を供して筑紫へ趣き一日山
 狩りて狼の導りて狼の紀平
 次と主従の約を結後狼死
 して為朝を助く



為朝



為朝肥後又越
 阿蘇三郎忠國の飼
 猿は佐一塔を登り
 捕得たりと為朝
 窟を放ち猿を捕忠國
 の聲とある



忠國為朝と智とあり
 氣量と計らんと多くの
 婢女に不意に起て為
 朝は追まひ少くも動せ
 す扇まで取鎮めたり





寺月一平巳

爲朝琉球へ渡り舊丸
 山は登る霧深くて巖
 さ踏外膳を打ち氣
 絶す寧王女廉夫人の
 介抱は蘇生す



爲朝

爲朝一代記

為朝一什言

いめとまきくとき
 為朝帰国の時
 おいふんどのそむめい
 寧王女が望む名
 玉と與へ索る鶴
 と為朝は渡り途
 中の食料は琉球
 芋と与へ夫より帰国

寧王女



為朝

為朝一什言

為朝一代訓

紀平次ハ為朝の船
み續んとあせれども
波に遊りる折兼て
用意の錢丸に結を
付為朝の船に投
無難船に打乗る

紀平次



月夜

為朝一代記



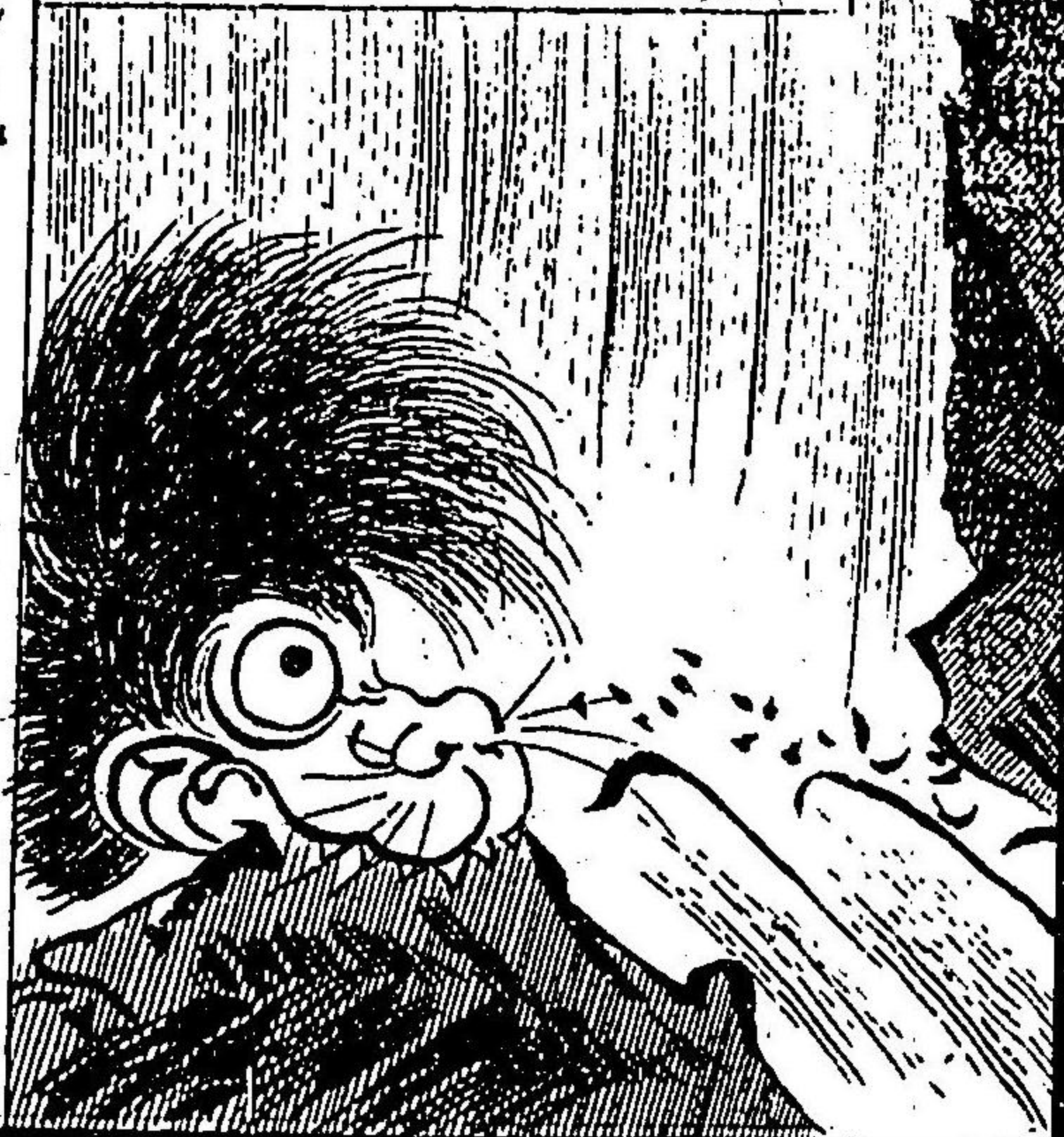
為朝帰國して洛上
 の時、崇徳院後白
 川院御位争より軍
 起り、兄義朝と敵とあり
 戦げ、共遂に軍敗せ
 江州へ落つ

為朝一代記



為朝

為朝馬飼藤市方
へ逗由中獸の皮を
賣る男弦断るを怪
み去る跡を追行き
射止首を切る是
山獠と云物あり



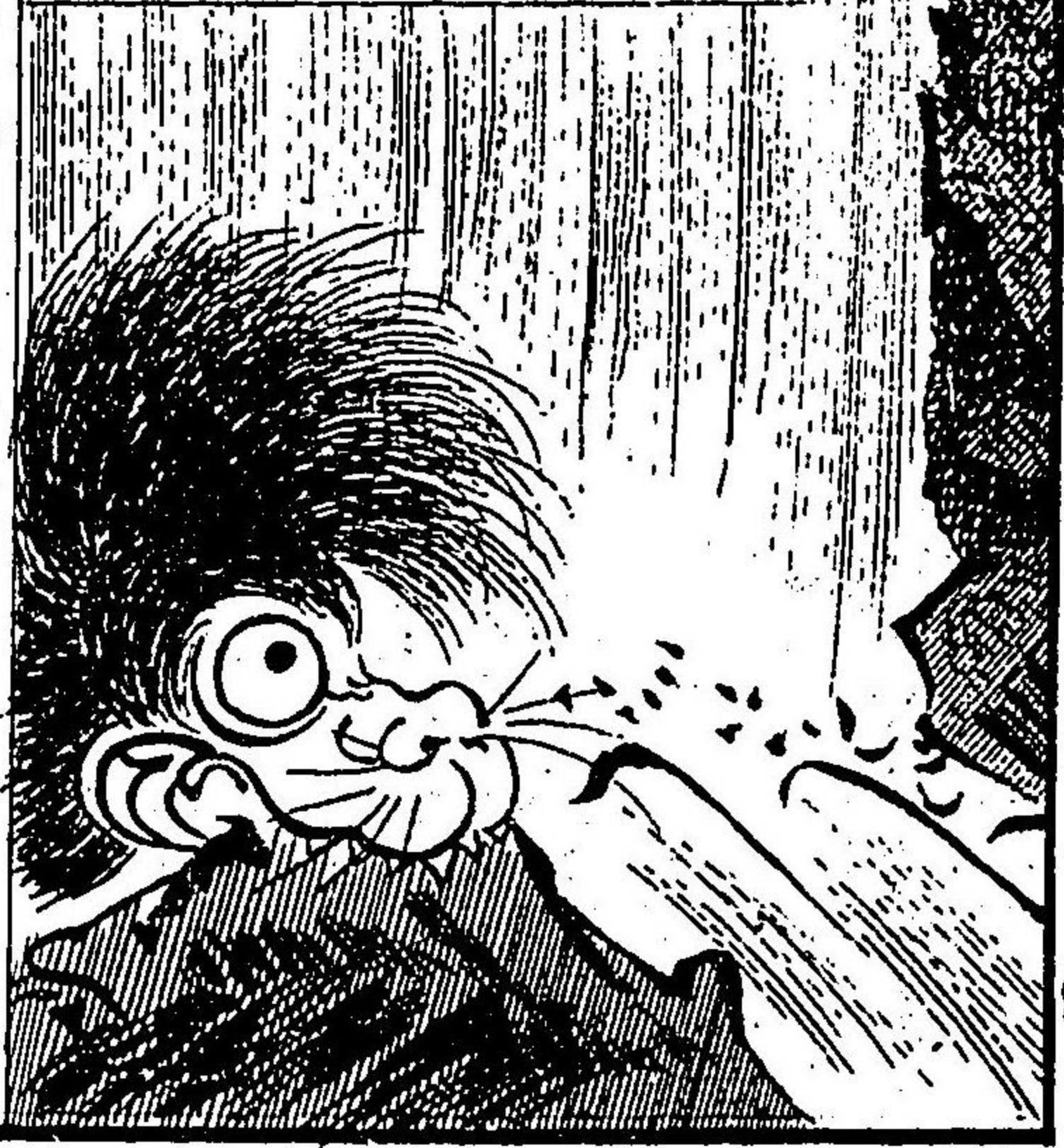
山獠と云物あり

為朝一代記



為朝

為朝馬飼藤市方
へ逗苗中獣の皮を
賣る男弦断るを怪
み去る跡を追行き
射止首を切る是
山獠と云物あり



山獠と云物あり

為朝一代記



為朝

捕縛方

為朝矢傷治療と
て石山の温泉よ
あるを告訴人
ありて多勢よ
て捕縛伊豆の太
島へ配流



捕縛方

捕縛方

為朝一代記



白縫

白縫ハ為朝を救んと
 其機を失ひ遂に讃
 洲にて海人とあり崇徳
 院に見えへは院ハ逆臣
 の一見まりうぐん
 き詔玉へ龍顔の恐
 を見大ニ驚く



白縫

為朝一介言

為朝一介言



白
縫

為朝追討して兵船大島へ向け来
る大鎗矢をつくへ標と放て
兵船の腹を射る船忽ち沈
没す



為
朝

為朝一代記



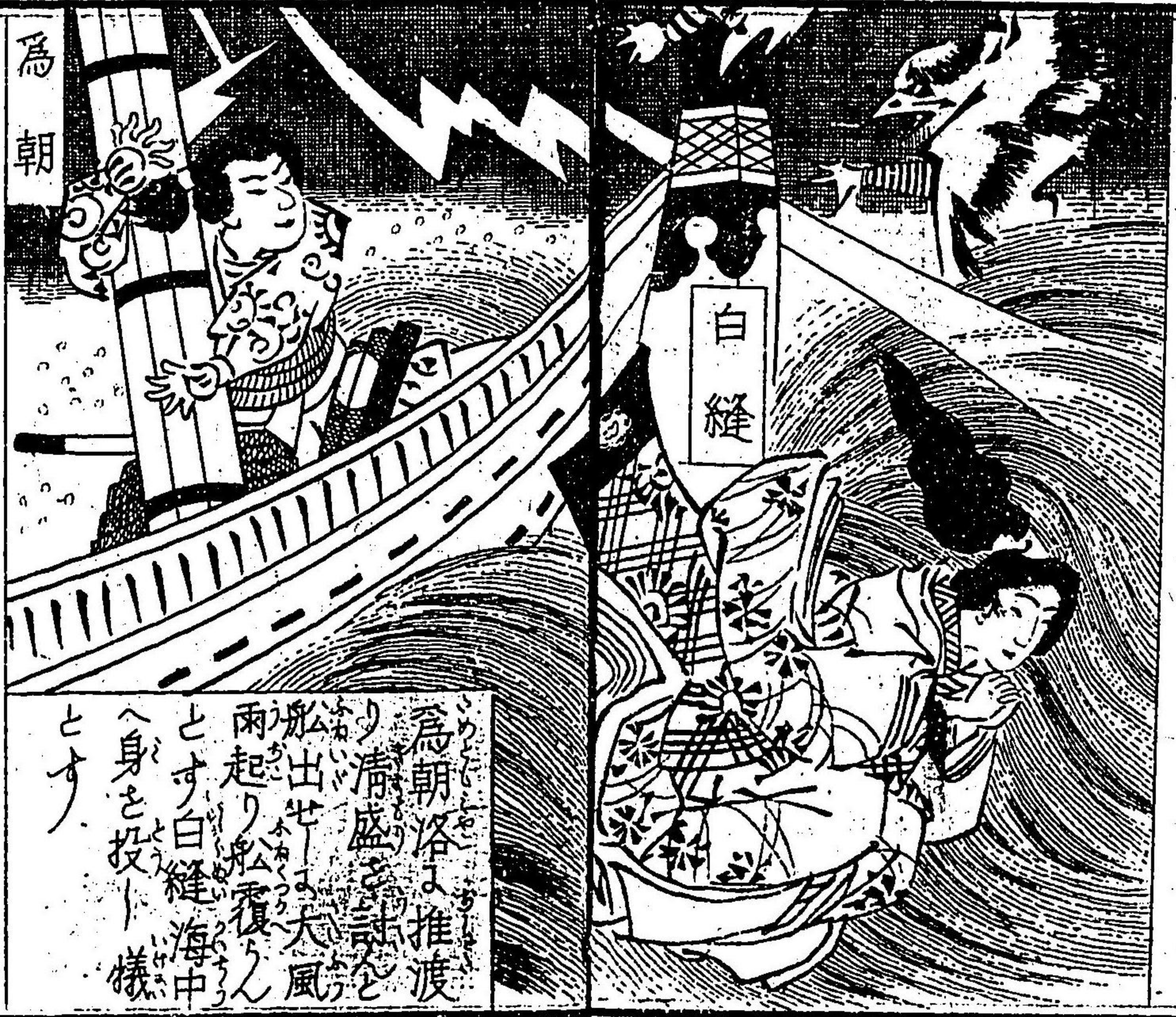
白縫

為朝木原山
の寨にて白縫
姫と逢ふ互よ
驚き其後此幽
寨は片白縫男
子を生めり是を
舜天丸と呼ぶ



為朝

為朝一代記



為朝

為月一七已

為朝浴よ推渡
 清盛を討て
 舟出せし大風
 雨起り船覆らん
 とす白縫海中
 へ身を投じ様
 とす

いめどしうん
 為朝ハ勝雲
 ほろはかきと
 と亡一大里
 ぢぢぢやう
 按司と称す
 そのこすてまる
 其子舜天丸
 りうきついつとう
 琉球を一統
 して舜天
 王と称一國
 政を執る



為月一六九



為朝一六九

為朝一介言



禍といふわざはひ 獣けものこころ 妻
 を追ふお 天孫氏あまのみこと
 ま祈いの る赤瀬あか の
 碑いし 倒たふ して禍わざはひ を打う
 伏ふ せか りり 昔あ の中な
 よりい 為朝あき 賊ぞく を
 射い て妻め を助たす く



為朝

為朝一代記

明治十八年三月廿日出版
同年同月廿日出版

編輯者 東京湯島區南元町二番地
出版人 牧金之助



舞天王

舞天王





特60
548

091974-001-9

特60-548

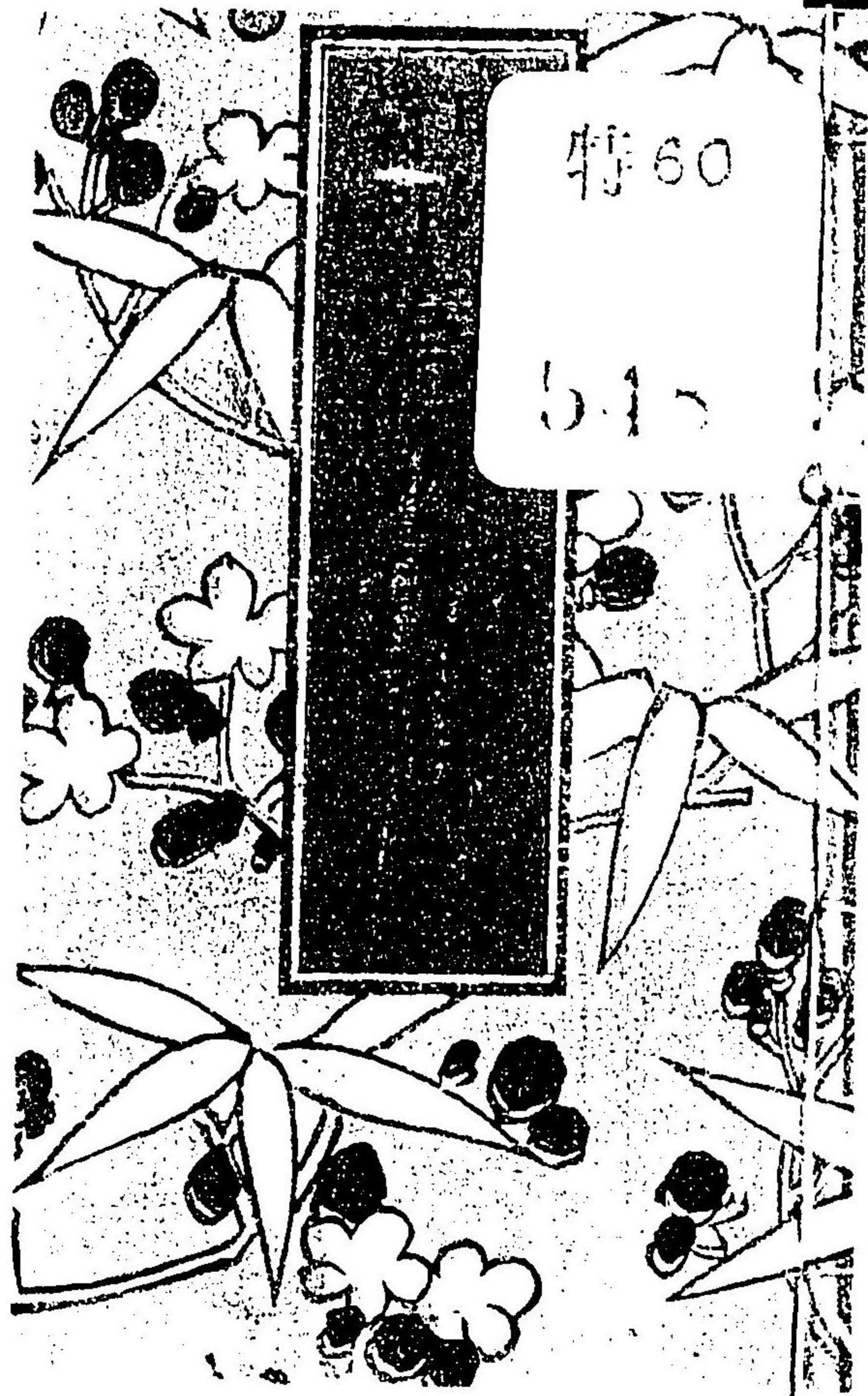
[繪本]

牧 金之助 / 刊

M18

DBP-0553





特60

5.15